

# 42 破天荒

令和 二年度版  
創刊  
第四十三号

## 相高最後の冬休み 悔いのない一日 一日を

ついに、波乱に満ちた二〇二〇年も終わりに近付き、二学期の終業式を迎えました。それと反比例するように、四十二回生にとっては、一生の中でも忘れることのできない、不安と期待が入り混じった大きな闘いの幕開けです。勿論、二期にも、大きな闘いを終えた生徒もいます。それぞれが、自分の進むべき道を切り開いて、誇りと自信を手につけてくれたと思います。その勢いのバトンを引き継いで、相高四十二回生は、共通テストを始めとする受験の本丸に向けて、自らの進路実現のために、最後の磨きをかけていきます。

### まだまだ伸びる 焦る暇などない

### 目の前に集中する こんなときこそ三点固定

高校三年生は、受験に対しては出来上がっていません。だからこそ、やればやるほどまだまだ伸びます。「できない、どうしよう」などと考える暇はない。未知の世界を突き進め、受験直前まで、積み重ねを忘れるな。時間を忘れて。ただし、効率よくやるには、頭と体の疲労を回復させてやらねばならない。つまり、入試時間に対応した三点固定をどれだけ押し通せるか。もう練習試合ではなく、本番仕様なので、がむしやりにやって、目に見えない疲労を蓄積させると、リズムが狂ったときにパニックになってしまう。それでも、運が良ければ結果につながることもあるが、世の中不思議とそう上手くはいかないものです。

### 自分成功する

という前向きな気持ちは大変良い。ただ、長く生きてくると、共通テスト翌日自己採点の人間模様は、日頃の生活態度や提出物の加減に比例しているのも、経験則では語らずにはいられない事案です。

千幾数日のうちの僅かな時間で、自分が築いてきたことを簡単に崩されないように、

### 実るほど頭を垂れる稲穂

であって欲しいものです。  
さあ、いよいよ本隊出撃です。悔いの残らぬ準備ができるように、年末年始の闘いを盛り上げてください。

## 第一志望を手に入れた

第一志望の大学は、英語の配点が高かったため、英語を重点的に勉強しました。まずは、空いた時間を有効に使い、英単語を覚えて、基礎固めをしました。また、長文を毎日一つ読むようにしていました。話が掴めなかったり、分からない単語があっても、読み進めることで、大体の内容が理解できることがあることも分かるようになりました。なので、読解しきれなくても最後まで読み進めることが大切だと感じました。

モチベーションが低下しているときは、「五分だけでもやろう」という気持ちで、自信のある分野の学習をしていました。十月に入ってから、小論文に時間をかけました。多くの問題に触れて、自分の型を作ることを意識しました。そして、自分が書いたものを、家族や先生に、積極的に見てもらい、意見を言ってもらったり、添削してもらいました。

模試の判定は、入試直前まで低いままだだったので、不安になることもありましたが、やってきたことを信じて、諦めずに前向きな姿勢を保つことで、合格を得られたのではないかと思います。休んでいる暇はありません。まだ受験を控えている仲間から刺激をもらいながら、これからは大学入学後に困ることがないように、生物を中心にした復習に、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

兵庫医療大学 リハビリテーション学部理学療法学科

私の将来の夢は、管理栄養士になることです。

そのために、栄養学科のある大学を第一志望にしました。武庫川女子大学出身の先生の話聞いて、武庫川女子大学に興味を持ちましたが、いろいろと調べていくうち、通学の往復時間に4時間を要する大学では、いくら恵まれた環境でも、自分自身の負担になると思い、もっと近くで自分に合った、夢を叶えることができる大学があるのではないかと思います。始めて、この大学に出会いました。いろいろと調べると、神戸女子大学管理栄養士養成課程も、国家試験の合格実績も良く、将来の進路を踏まえ、何よりも往復通学時間2時間半、幅広い分野での実習体験、海外でも学ぶ経験もできることから、第一志望の大学として目指す決意をしました。

受験するうえで苦労したのは生物です。私は文系なので、専門生物の授業がありませんでした。なので、親に無理を言い、塾に通わせてもらいました。塾で大まかな説明を受けて、家では教科書や参考書の文章を「何回も」読み、図を書いて覚え、間違えたところを繰り返し復習しました。

また、第一志望の過去問だけでなく、他大学の過去問もたくさん解きました。

模試や過去問を解いているうち、点数が上がるとモチベーションが上がり、勉強のやる気が出ました。

入試日が近づくにつれて、不安になることもたくさんありましたが、「絶対に受かる」と言う気持ちで最後まで諦めずに努力しました。合格の通知を受けて、努力して良かったと、心から思いました。

この気持ちを忘れず、大学入学後も困らないように、特に生物と化学については、高校卒業までしっかり復習しておきます。

神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程

## 私達にできること

2 学期終業式を前に、42 回生全員に文具を配布しました。中身は  
・鉛筆 (HB) 4 本 ・プラスチック消しゴム 1 個  
・簡易鉛筆削り 1 個  
です。  
共通テスト用ではありません。すでに用意して、使い慣れた物にしている生徒もいますが、激励も含めてということで。  
闘い抜いて、第一志望を手にした生徒の皆さん、形になる物を用意してやれずごめんなさい。  
これから第一志望を目指す者とともに、どうか闘ってやって下さい。

## 卒業記念品について

もうこんな季節になってしまいました。本当にコロナウイルスに振り回された一年でした。ただ、そんな中、本校でも、若いこれからの先生方を中心に、リモート対応・距離感を保ちながらの効果的な授業・タブレット利用等、これからの時代に向けての授業のために、努力をされています。

42 回生は、新たな入試を謳われながら、数多くの撤退に振り回された 3 年間でもありました。英語資格・記述試験対応など、また、それに伴う模試代金の増加などに対応するために、保護者におかれ、多くの負担をお願いしました。本当に申し訳ありません。

そんな中でしたが、42 回生から学校への卒業記念品に、移動式のプロジェクタ三台(右写真)をさせて頂きます。各 HR 教室には固定式のプロジェクタ一式が設置されましたが、選択教室には設置されることは叶いませんでした。

そこで、授業充実のためにも、この選出とさせて頂きます。例年より若干負担が多いですが、後世にずっと残るコロナ元年での卒業となります。今年度に限りです。ご負担へのご理解をお願いします。



参考までに、下の表は、私の学生時代の大体の収支関係です。アルバイトも、家庭教師・酒屋さんや展示場の会場作りなど、世の裏を知ることもできたし、良い雇い主に恵まれました。

酒屋さんの奥さんは、いつも夕食弁当を持たせてくれて、ときにはビールも・・・。家庭教師先では、まず一緒に夕食を食べ・・・。家族のようにして頂き、時には生徒さんのカウンセリングのようなことも。

素敵な出会いと経験をした、お金では買えない四年間でした。

	実際(下宿)	通学
奨学金	28,000	22,000
仕送り	52,000	0
アルバイト	7時頃から週2~3回 30,000~40,000	良くて土日 帰宅してから
通学定期	0	一か月 電車代 約20,000 バス代 約 8,000円
家賃	28,000(風呂なし)	0
原付ガソリン代	4,000	部活動等している人は同じ
部活動費	学年が上がると多くなる (先輩たちへの出費)	学年が上がると多くなる

皆さんには何度か話しましたが、私の志望大学の決め手は、模試等の数字ではなく、部活動でした。指導者がいて部活動に傾倒するような高校ではありませんでしたが、先輩や仲間を伝って、多くの大学や高校と合同練習をさせてもらうこともしばしばでした。そんな中で大会や高校と後に大学の先輩となる方々との出会いが、第一志望校を決定させました。

総体で悔いを残し、県選手権までと決めて後輩たちとともに練習をしている中で、左足太腿の肉離れ。筋肉が切れるとともに、競技への後悔も気持ちよく断ち切れ、そこからは「学校」を利用しての闘いを全うできました。因みに、家が裕福だったわけではなく、私立大学の受験はさせてもらっていません。結果的に、退路が断たれて「やるしかない」気持ち、親からもらったのだと思います。

さて、大学時代です。本当は、親とは通学の約束でした。が、「最初の二年だけ下宿させて」と懇願し、下宿を勝ち取りました。そして、どさくさに紛れて卒業まで・・・。悪い息子だったかもしれない。

仕送りは月八万円の約束でしたが、奨学金をもらえるようになり、その分を差し引いた五万二千円を、月々受け取っていました。本当にありがたかったです。

ただ、自立だけのために下宿ではなく、学生の間には与えられる貴重な時間は、間違いなく下宿の方が取れたと思います。

部活動だけでなく、通学生達は、「時間が無い」ことを盛んに言っていました。結果、夜遅く朝早くから、朝が辛い・・・と。

この経験があったから、娘にも『投資』と言う発想を持って、経験をさせることができたとも思います。

学生でありながら、多くの社会経験、常識、理不尽、辛抱、配慮、そして、何とはなく意味がありそうなさそうな、夜通し語り合った時間というものは、いま想えば財産です。

こういう教師と言う仕事をしているからではなく、「生きる力」「折れない心」を、身につけてもらったと感じています。

でも、両親は、「少し偉そうにする」と、不満を持っていただけかもしれませんが、勿論、巣立つだけが良いわけではありませんが、でも、いつかは必ず巣立つ。その一つのタイミングではあるのかな。

## 私の学生時代 10年前

## 共通テスト近辺までの予定

12月25日(金)まで	保護者懇談会
12月28日(月)	御用納め
1月4日(月)	御用始め
1月5・6日(火・水)	共通テスト直前演習(大進研)
1月8日(金)	始業式
1月11日(月)	成人の日
1月15日(金)	4限まで 4限目共通テスト激励会

文部科学省の通達によって、共通テスト当日の教職員の会場訪問に、制限が求められました。どんな形でのサポートになるかは、次回の学年通信、もしくは、激励会の際に連絡します。

それより、

共通テスト受験上の注意事項に目を通しましたか。何もなくても、当たり前ですが、何かあった時に、同じ受験生である、側にいる友人に影響を与える、側にいる友人に、対応を確認して下さる。私達にとっては、どちらも大切な生徒です。

## 仕事とは

自分の誇りをかけて、日々向かい合うものだと思います。仕事の善し悪しは他人が判断するもので、させてもらっている仕事は少なくとも自分が決めて得たものだということを忘れたいでしょう。

人知れず、何度も悔し涙を流し、心から嬉し涙し、今があります。君達も、いつかその事が分かります。

だから、今を大切に、困難に立ち向かい、努力し、目の前の自分を乗り越える必要がある。高校生活もあとわずか。

体調管理、時間管理をしっかりして、君たちのなすべき生活をしっかりとやり続けよう。これが君たちの仕事です。

四十二回生にとって、勝負の冬休み。多くの人は、年明けの五、六日に会います。

自信に満ちた顔、不安を感じている分、冷静かつ謙虚な取り組みを持って、勝負のときを熱く冷静に迎えましょう。

健闘を祈ります。